

Indonesia Bi-Weekly

2012年11月21日号 (対象期間: 2012年11月5日～2012年11月16日)

英国ブルーデンシヤルグループ



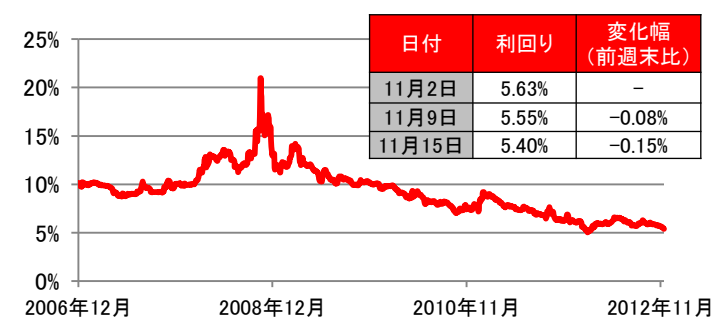
インドネシアの株式市場は対象期間中、高値圏(インドネシアの代表的株価指数であるジャカルタ総合指数*で4,300ポイント台)で横ばいを続け、債券市場の上昇(利回りは低下)傾向は継続しました。為替は11月13日以降、日本の金融緩和期待から円安が進み、インドネシアルピア高円安となりました。なおインドネシア株式市場は11月15日と16日がイスラム新年による祭りのため休場でした。*出所: Indonesia Stock Exchange

【株式市場】ジャカルタ総合指数の推移



出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベスツメンツ作成。上記のグラフは2006年12月28日からの推移を示しています。

【債券市場】インドネシア自国通貨建て10年国債利回りの推移



出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベスツメンツ作成。上記のグラフは2006年12月29日からの推移を示しています。

【為替市場】インドネシアルピアの対円レートの推移



出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベスツメンツ作成。上記のグラフは2006年12月29日からの推移を示しています。(100インドネシアルピア対円レート)

【株式市場】

株式市場では世界主要市場が調整色を強める中、高値圏をほぼ横ばいに推移しました。基礎産業・化学と建設・不動産セクターが堅調でした。加えて政策金利の据置きや、国債市場の緩やかな利回り低下の継続を背景に金融セクターも相対的に高パフォーマンスでした。個別銘柄ではバンク・セントラル・アジアが2週間で8.4%上昇しました。

【債券市場】

インドネシア10年国債の利回りは、中央銀行の金利据置き決定をさみ、海外からの資金流入等を主要因として堅調に推移しました。同利回りは期間中低下基調を続け、11月2日の5.63%から11月15日には5.40%に低下しました。11月8日インドネシア中央銀行は政策金利を5.75%で維持することを決定しました。これは事前の市場予想通りでした。

【為替市場】

インドネシアルピアの対円レートは、欧州債務問題再燃、米国の「財政の崖」問題等の影響でリスク回避の動きから円高傾向となり、11月2日までの5週連続上昇が途切れ、11月5日から11月9日は円高で推移しました。11月13日以降、日本の金融緩和と拡大期待が高まり円安傾向に転換、再びインドネシアルピアの対円レートも円安になり、対象期間内では円安インドネシアルピア高が進行しました。

【ニュース】

経済	<p>インドネシア第3四半期GDP、前年同期比6.2%増</p> <p>11月5日、インドネシア政府統計局が7-9月期のGDP統計を発表しました。4-6月期の6.4%からは減速しましたが、堅調な消費と投資に支えられ、輸出の低迷を補って成長率は高水準を保っています。外国からの投資継続等で、インドネシアの投資対象としての魅力は高まってきていると言えるでしょう。主要先進国との成長率比較を基礎講座で取り上げましたのでご参照ください。</p>
	<p>未加工の鉱物資源に対する輸出規制を見直しへ</p> <p>インドネシア最高裁が政府の「未加工の鉱物資源(銅、ニッケル、スズ、ボーキサイト等)に対する輸出規制」について無効であるとの判断を11月5日に示し、翌日政府はこの規制を見直す方向であると、エネルギー鉱物相のワチック氏が発表しました。政府は自国の重要な鉱物資源を未加工のまま輸出することに対する規制(当初20%の関税、2014年から輸出禁止の予定)を実施し、自国の精錬や金属産業を育成しようとしてきました。しかしこれらの規制は中小業者に負担であり、外国からの貿易ルール上も懸念が表明されたりと問題含みでした。今回の見直しは業界には短期的な負担が減り、一貫しない方針に不満はあるものの、プラス方向の変化であると評価できそうです。</p>

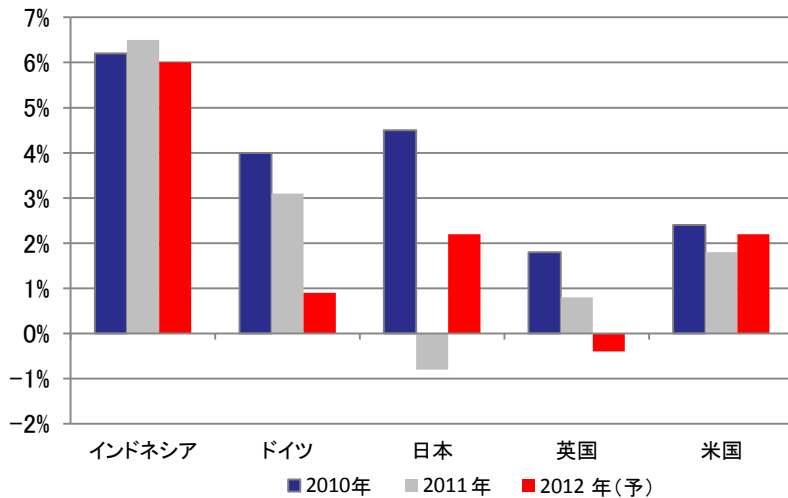
英国ブルーデンシヤル社はイーストスプリング・インベスツメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルデンシヤル・ファイナンシヤル社とはなんら関係がありません。

2012年11月21日号(対象期間:2012年11月5日~2012年11月16日)

【インドネシア基礎講座】インドネシアのGDP成長:高水準かつ安定的で相対的に魅力

欧州債務問題、米国の「財政の崖」問題、中国の成長急減速など成長阻害の要因が世界中に拡散しています。新興国もその影響から逃れることは難しく、高水準を維持してきたGDP成長率が足元で低下する傾向も見られています。このような状況の中でインドネシアのGDP成長率は実質GDPで2010年6.2%、2011年6.5%と堅調に推移し、2012年のIMF予想でも6.0%と減速はしますが、財政問題を抱える欧州等先進国と比較すると魅力的であると言えるでしょう(グラフ参照)。また2012年の進捗も、1-3月期以降(実質、前年同期比伸び率)安定度が高く、IMF予想(6.0%)の水準から大きく乖離していないことも評価できると考えられます(表参照)。

インドネシアと主要先進国の実質GDP成長率



2012年四半期実質GDP成長率の推移

	1-3月	4-6月	7-9月
インドネシア	6.3%	6.4%	6.2%
ドイツ	1.7%	0.5%	0.4%
日本	2.9%	3.3%	0.1%
英国	-0.1%	-0.5%	0.0%
米国	2.4%	2.1%	2.3%

(単位%:対前年同期比)

出所:IMF世界経済見通しデータベース(2012年10月)のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

出所:Bloombergのデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社について
160年以上の歴史を有する英国の金融サービスグループの一員です。

- イーストスプリング・インベストメンツ株式会社は、1999年の設立以来、日本の投資家のみなさまに資産運用サービスを提供しています。
- イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社は、英国、米国、アジアをはじめとした世界各国で業務を展開しています。
- 最終親会社グループはいち早くアジアの成長性に着目し、アジアでは13の国や地域で生命保険および資産運用を中心に金融サービスを提供しています。最終親会社グループの運用資産総額は、2011年12月末現在、約3,510億ポンド(約42兆円、1ポンド=119.81円)に上ります。



アジア株式・債券の運用拠点であるイーストスプリング・インベストメンツ(シンガポール)リミテッドについて

- アジア地域を幅広くカバーする資産運用会社で、インドネシアを含むアジア株式・債券に関する専門知識と豊富な経験を最大限活用した運用を行います。
- 株式運用においてはボトムアップ・アプローチによる銘柄選択で厳選したポートフォリオの構築とリスク管理を重視、債券運用においては金利、クレジット、為替に対してファンダメンタルズ、バリュエーション、テクニカル等複数の視点で分析、ポートフォリオを構築し、トータル・リターンを最大化を目指した運用を行います。

[当資料に関しご留意いただきたい事項]

当資料は、インドネシアの証券市場と政治、経済、文化等にかかる情報提供のみを目的として、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社(「当社」)が株式会社T&C XTF Japanに情報提供を依頼し作成したもので、特定の金融商品等の勧誘・販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。当資料は信頼できると判断された材料を使い、十分な注意を払って作成していますが、当社および株式会社T&C XTF Japanは、必ずしもその正確性、完全性をお約束するものではありません。また、掲載された企業につきましては、あくまで直近のトピックとしてご紹介させていただいたものであり、個別銘柄の売買の推奨を意図したのではなく、当社が運用を行う投資信託への組入れを示唆するものではありません。